# 思春期体験学習の短期・長期効果

分担研究者　清　水　凡　生
(広島大学幼児保健学教室)

## はじめに

子育て支援を充実させるための諸施策が実施されようとしている。誠に結構なことであるが、子育て支援の充実は、ともすれば、子育てを支援施設に依存してしまう母親をつくりやすい。それを防ぐのは「母性」である。また、若年女性の人工妊娠中絶が増加しているという。これを防ぐのも生命の尊さ、母となることの感激と重大さの認識であろう。生命のかたまりのような赤ちゃんに中高生が接することによってこれらの認識を新たにすることができれば、これらの問題はかなり解決するように思われる。思春期体験学習のねらいはこのあたりにある。すでにかなりな場所でこの体験学習が行われている。その時の生徒の反応や感想文から所期の目的はかなり達成されているようであるが、より科学的な立証が望まれる訳である。この研究班が構成された目的はここにある。

本研究は赤ちゃんとのふれあい体験が中学生の育児、赤ちゃん、親、などの意識にいかなる変容を及ぼすか、また体験学習が長期に影響をもつものかといった点をアンケート調査で検討したものである。

## 研究方法

広島県賀茂郡河内町河内中学校の3年生男女全員を対象としたが、体験学習は河内町が実施する乳児育児相談、乳児健診の場に中学生を参加させ、母親とともに着衣の着脱、おむつの交換などを行わせた。全生徒を4班に分け、各班20名余となるが正味1時間余の間母子と密着した。体験学習の前に、学校で体験前アンケートと「赤ちゃんについて」という題で感想文を書かせた。また、体験直後同一会場内で体験後アンケートと再び「赤ちゃんについて」の感想文を書かせた。平成5年、6年の2年間に体験した男女158名について検討した。

また、すでに長年にわたってこの事業を実施してきた道県に依頼し、体験学習を経験した卒業生に3,465部のアンケートを送付し1,026部回収し得た。

## 研究結果

感想文の分析は田中班員によってなされ、別項で報告されるので、ここにはアンケート調査の概要を述べることにする。

### 1．短期効果

中学生の体験前後のアンケートによる意識変容の結果である。有意差検定は対数線形モデル分析によった。「赤ちゃんのイメージ」については「弱い」「やかましい」など負のイメージから「元気」「たくましい」など陽のイメージが増加している。この結果は赤ちゃんを観念的にしか理解していなかったものが実態を十分理解したことをも示している。(表1)

赤ちゃんのイメージ

| | 体験前 | 体験後 |
|---|---|---|
| ①弱い | 11 ( 7.0) | 5 ( 3.2) |
| ②やかましい** | 14 ( 8.9) | 1 ( 0.6) |
| ③何もできない | 3 ( 1.9) | 4 ( 2.5) |
| ④よく泣く | 20 ( 12.7) | 9 ( 5.7) |
| ⑤かわいい | 75 ( 47.5) | 84 ( 53.2) |
| ⑥元気*** | 18 ( 11.4) | 38 ( 24.1) |
| ⑦大きくなる | 1 ( 0.6) | 1 ( 0.6) |
| ⑧たくましい** | 0 ( 0.0) | 6 ( 3.8) |
| ⑨自分の昔の姿 | 8 ( 5.1) | 6 ( 3.8) |
| ⑩その他 | 8 ( 5.1) | 4 ( 2.5) |
| 合計 | 158 (100.0) | 158 (100.0) |

度数 (%)　*** p<.01　** p<.05

表1

「赤ちゃんからの連想」でも体験前の認識は「お乳」「おむつ」など表面的なものであるが、体験すると「いのち」「お母さん」など内面的認識に変わっている。(表2)「育児について」も体験後「素晴らしい」が著増し「幸せ」も増加した。(表3)

「育児しているお母さん」についての質問にも体験

赤ちゃんからの連想

| | 体験前 | 体験後 |
|---|---|---|
| ①お乳*** | 27 ( 17.1) | 10 ( 6.3) |
| ②おむつ** | 31 ( 19.6) | 17 ( 10.8) |
| ③弟 | 17 ( 10.8) | 11 ( 7.0) |
| ④妹 | 6 ( 3.8) | 8 ( 5.1) |
| ⑤いのち*** | 10 ( 6.3) | 37 ( 23.4) |
| ⑥天使** | 36 ( 22.8) | 22 ( 13.9) |
| ⑦お父さん | 0 ( 0.0) | 2 ( 1.3) |
| ⑧お母さん*** | 2 ( 1.3) | 28 ( 17.7) |
| ⑨子犬 | 3 ( 1.9) | 9 ( 5.7) |
| ⑩小猿** | 12 ( 7.6) | 5 ( 3.2) |
| ⑪子猫 | 4 ( 2.5) | 3 ( 1.9) |
| ⑫かるがも | 0 ( 0.0) | 1 ( 0.6) |
| ⑬その他 | 6 ( 3.8) | 5 ( 3.2) |
| 無回答 | 4 ( 2.5) | 0 ( 0.0) |
| 合計 | 158 (100.0) | 158 ( 100.0) |

度数（%） *** p<.01 ** p<.05

表2

育児について

| | 体験前 | 体験後 |
|---|---|---|
| ①めんどう | 15 ( 9.5) | 6 ( 3.8) |
| ②いそがしい | 66 ( 41.8) | 44 ( 27.8) |
| ③苦しい | 15 ( 9.5) | 7 ( 4.4) |
| ④面白い | 3 ( 1.9) | 9 ( 5.7) |
| ⑤楽しい | 9 ( 5.7) | 14 ( 8.9) |
| ⑥素晴らしい*** | 15 ( 9.5) | 40 ( 25.3) |
| ⑦幸せ | 15 ( 9.5) | 25 ( 15.8) |
| ⑧何とも思わない | 5 ( 3.2) | 4 ( 2.5) |
| ⑨わからない | 8 ( 5.1) | 2 ( 1.3) |
| ⑩その他 | 6 ( 3.8) | 7 ( 4.4) |
| 無回答 | 1 ( 0.6) | 0 ( 0.0) |
| 合計 | 158 (100.0) | 158 (100.0) |

度数（%） *** p<.01 ** p<.05

表3

後は「楽しそう」「幸せそう」という回答が増えている。(表4)最も注目すべきは、「親」についての意識が体験前は「うるさい」「煩わしい」「注文が多い」な

育児している母親について

| | 体験前 | 体験後 |
|---|---|---|
| ①大変そう | 67 ( 42.4) | 59 ( 37.3) |
| ②忙しそう | 20 ( 12.7) | 8 ( 5.1) |
| ③めんどくさそう | 5 ( 3.2) | 1 ( 0.6) |
| ④きつそう | 4 ( 2.5) | 2 ( 1.3) |
| ⑤楽しそう** | 7 ( 4.4) | 16 ( 10.1) |
| ⑥偉い | 16 ( 10.1) | 14 ( 8.9) |
| ⑦自分も育てられ | 4 ( 2.5) | 1 ( 0.6) |
| ⑧幸せそう*** | 12 ( 7.6) | 37 ( 23.4) |
| ⑨いきいきしてる | 14 ( 8.9) | 16 ( 10.1) |
| ⑩何とも思わない | 3 ( 1.9) | 1 ( 0.6) |
| ⑪わからない | 1 ( 0.6) | 1 ( 0.6) |
| ⑫その他 | 4 ( 2.5) | 2 ( 1.3) |
| 無回答 | 1 ( 0.6) | 0 ( 0.0) |
| 合計 | 158 (100.0) | 158 (100.0) |

度数（%） *** p<.01 ** p<.05

表4

ど中学生年代に一般的と考えられるものが多いが、体験すると「ありがたい」が著増し、「うるさい」が著減する。(表5)

このような体験学習を再度経験したいか否かを質問したところ、是非したいという意見が増えている。(表6)

これらの変化は男女差がなく、祖父母と同居の有無とも関係なかった。

一般的な意味で親について

| | 体験前 | 体験後 |
|---|---|---|
| ①うるさい** | 33 ( 20.9) | 13 ( 8.2) |
| ②わずらわしい | 8 ( 5.1) | 2 ( 1.3) |
| ③注文が多い | 11 ( 7.0) | 3 ( 1.9) |
| ④厳しい | 10 ( 6.3) | 4 ( 2.5) |
| ⑤威厳がある | 2 ( 1.3) | 4 ( 2.5) |
| ⑥ありがたい** | 28 ( 17.7) | 45 ( 28.5) |
| ⑦たのもしい | 3 ( 1.9) | 9 ( 5.7) |
| ⑧楽しい | 5 ( 3.2) | 10 ( 6.3) |
| ⑨安心感がある | 27 ( 17.1) | 37 ( 23.4) |
| ⑩わからない | 26 ( 16.5) | 27 ( 17.1) |
| ⑪その他 | 5 ( 3.2) | 4 ( 2.5) |
| 合計 | 158 (100.0) | 158 (100.0) |

度数（%） *** p<.01 ** p<.05

表5

今後のふれあい体験について

| | 体験前 | 体験後 |
|---|---|---|
| ①したくない | 9 ( 5.7) | 6 ( 3.8) |
| ②乗り気がしない** | 39 ( 2 4.7) | 17 ( 10.8) |
| ③少し楽しみ** | 49 ( 31.0) | 67 ( 42.4) |
| ④非常に楽しみ | 40 ( 25.3) | 48 ( 30.4) |
| ⑤わからない | 17 ( 10.8) | 18 ( 11.4) |
| ⑥その他 | 3 ( 1.9) | 2 ( 1.3) |
| 誤回答 | 1 ( 0.6) | 0 ( 0.0) |
| 合計 | 158 (100.0) | 158 (100.0) |

度数（%） *** p<.01 ** p<.05

表6

## 2．長期効果

今回の調査では体験学習の経験者がすべて25歳以下であったことと、子どもをもたないものが大部分であることから、子どもをもたない25歳以下の男女755名(経験者486名、未経験者269名)について分析した。

意識の種々相について5段階評価の回答を求め、各段階を1から5の点数として各項目の平均点数を両群で比較した。有意差は t 検定によって判断した。その結果、体験経験者は赤ちゃんの世話をするのが好きであり、赤ちゃんをわずらわしく思わず、赤ちゃんから奇妙な感じをもたないということが明らかにされた。また、育児については育児のために世の中から取り残されたとは思わず、育児がつらい仕事とは思わない、また育児をしている女性を疲れているとは思わないということが示された。その他統計的に有意ではないが、体験学習経験者はすべての項目で育児や赤ちゃんに対して好感的であることが示されている。(表7)

また、人工妊娠中絶について「絶対すべきでない」という回答が体験学習経験者に多く、「やむお得ない時はよい」という回答が非体験者に多い。(表8)他の質問項目で体験者と非体験者の間に差を認めない中で、人工妊娠中絶に関する意識の差は特

| | | ふれあい経験の有無 ある | ない |
|---|---|---|---|
| 1 赤ちゃんは好き | 平均 | 1.52 | 1.52 |
| | SD | 0.84 | 0.88 |
| 2 見ていると楽しい | 平均 | 1.48 | 1.46 |
| | SD | 0.81 | 0.83 |
| 3 一緒にいるのが好き | 平均 | 1.80 | 1.89 |
| | SD | 1.01 | 1.03 |
| 4 世話をするのが好き** | 平均 | 2.19 | 2.38 |
| | SD | 1.16 | 1.08 |
| 5 赤ちゃんはかわいい | 平均 | 1.23 | 1.26 |
| | SD | 0.58 | 0.66 |
| 6 赤ちゃんはわずらわしい*** | 平均 | 3.62 | 3.23 |
| | SD | 1.14 | 1.20 |
| 7 あやし方がわからない | 平均 | 2.71 | 2.59 |
| | SD | 1.13 | 1.15 |
| 8 奇妙な感じがする ** | 平均 | 4.08 | 3.90 |
| | SD | 1.13 | 1.14 |
| 9 赤ちゃんには関心がない | 平均 | 4.29 | 4.15 |
| | SD | 1.02 | 1.12 |
| 10 赤ちゃんがそばに来ると逃げたくなる | 平均 | 4.45 | 4.32 |
| | SD | 0.97 | 1.11 |
| 11 育児は素晴らしい仕事 | 平均 | 1.68 | 1.61 |
| | SD | 0.93 | 0.93 |
| 12 世の中からとりのこされる *** | 平均 | 3.83 | 3.57 |
| | SD | 1.17 | 1.16 |
| 13 育児で自分も成長できる | 平均 | 1.37 | 1.43 |
| | SD | 0.66 | 0.75 |
| 14 育児は楽しい | 平均 | 2.44 | 2.32 |
| | SD | 1.04 | 1.02 |
| 15 視野が狭くなる | 平均 | 3.10 | 3.16 |
| | SD | 1.15 | 1.13 |
| 16 育児は女性の生きがい | 平均 | 2.73 | 2.75 |
| | SD | 1.10 | 1.07 |
| 17 育児は男性の生きがい | 平均 | 2.58 | 2.68 |
| | SD | 1.25 | 1.21 |
| 18 育児はつらい仕事*** | 平均 | 2.51 | 2.27 |
| | SD | 1.13 | 1.07 |
| 19 育児でしたいことができない | 平均 | 2.31 | 2.20 |
| | SD | 0.97 | 0.91 |
| 20 育児はつまらない仕事 | 平均 | 4.27 | 4.20 |
| | SD | 0.86 | 0.83 |
| 21 育児で女性は輝いて見える | 平均 | 2.22 | 2.26 |
| | SD | 0.95 | 0.97 |
| 22 育児で女性は疲れて見える** | 平均 | 3.64 | 3.45 |
| | SD | 1.08 | 1.01 |
| 23 育児で男性は輝いて見える | 平均 | 2.64 | 2.51 |
| | SD | 1.06 | 0.95 |
| 24 育児で男性は疲れて見える | 平均 | 3.78 | 3.70 |
| | SD | 0.98 | 0.94 |

1 あてはまる～5 あてはまらない　*** P<.01　** P<.05

表7

筆すべきであろう。

体験学習を経験して1～7年を経過していても、体験学習経験者は未経験者に比して赤ちゃんや育児に対して好感的立場にあることが明らかにされ、体験学習の長期効果が明らかに存在することが認められた。

## 考　察

赤ちゃんとふれあっている中学生は、男女ともに始めの時間はぎこちないところがあるが、中盤からは眼を輝かせている。赤ちゃんを抱いて哺乳瓶で飲み物を与えている生徒、おむつ交換を手伝う生徒、抱っこして赤ちゃんの手をしっかり握り締めている生徒、育児指導や栄養指導を母親と一緒に真剣な表情で熱心に聞く生徒。このような情景は体験学習を高く評価させるものであるが、非科学的のそしりを受ける。

表情、情景を客観的に評価する方法の開拓も重要であろう。

ともあれ、アンケート調査では明らかに、育児、赤ちゃんに対する意識が受容的に変化している。また、親に対する認識の変化は注目すべきであろう。このことはふれあい体験学習が単に「望まない妊娠防止」「母性の涵養」などに効果があるのみでなく、人間観、世界観にも大きな影響を与えるものであることが示唆される。最近問題になっている「いじめ」問題の解決にもつながるかも知れない。小学校での学習がより効果的であるかもしれない。小学校で実施されているところの検討が必要であろう。

長期効果が育児、赤ちゃんへの認識に認められるが、たかが1時間余のふれあいが長期効果をもたらす訳がないとの意見もある。しかし、大きな意識変容を与えられた赤ちゃんとのふれあい経験は、その後、日常生活のなかで接する赤ちゃんの見方を変えるであろう。親子の姿にそれまでは見えなかった何かを見るに違いないと思われる。その度に体験学習で得た心の変化は強化されるであろう。

さらに広範な視野からの検討が必要である。

## まとめ

思春期体験学習の評価について、短期、長期効果をアンケート調査から検討したが、生徒達に大きな影響を与えることが示された。特にいのちや親に対して受容的となることが示され、評価されるべき事業であると思われる。しかし、今回示された結果からより多角的に、広範囲に研

人工妊娠中絶についての意識

| ふれあい経験 | した | していない |
|---|---|---|
| 絶対にすべきでない | 78 ( 16.0) | 21 ( 7.8) *** |
| できるだけしない方がよい | 277 ( 57.0) | 153 ( 56.9) |
| やむを得ない時はよい | 105 ( 21.6) | 85 ( 31.6) *** |
| しても構わない | 10 ( 2.1) | 5 ( 1.9) |
| わからない | 16 ( 3.3) | 5 ( 1.9) |
| 合計 | 486 (100.0) | 269 (100.0) |

( ):%　***P<.01

表8

究を進めるべきであることが示唆された。

**謝　辞**

長期効果のアンケート調査にご協力いただいた以下の方々に感謝します。

広島県世羅郡世羅町福祉課　掛川恵美子係長
高知県保健環境部健康対策課　鈴木順一郎課長
広島県世羅郡甲山町厚生課　鈴木政子係長
和歌山県古座保健所　藤社恵美子係長
北海道庁保健予防課　永井孝一係長
宮崎県宮崎保健所　松元勝子係長

検索用テキスト　OCR（光学的文字認識）ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

はじめに

子育て支援を充実させるための諸施策が実施されようとしている。誠に結構なことであるが、子育て支援の充実は、ともすれば、子育てを支援施設に依存してしまう母親をつくりやすい。それを防ぐのは「母性」である。また、若年女性の人工妊娠中絶が増加しているという。これを防ぐのも生命の尊さ、母となることの感激と重大さの認識であろう。生命のかたまりのような赤ちゃんに中高生が接することによってこれらの認識を新たにすることができれば、これらの問題はかなり解決するように思われる。思春期体験学習のねらいはこのあたりにある。すでにかなりな場所でこの体験学習が行われている。その時の生徒の反応や感想文から所期の目的はかなり達成されているようであるが、より科学的な立証が望まれる訳である。この研究班が構成された目的はここにある。

本研究は赤ちゃんとのふれあい体験が中学生の育児、赤ちゃん、親、などの意識にいかなる変容を及ぼすか、また体験学習が長期に影響をもつものかといった点をアンケート調査で検討したものである。